

人間も動物もそして植物までも「ガン」になります。細胞の集合体で、その細胞がある秩序のもとで分裂と増殖を繰り返すところには「ガン」が出来ます。

私たちの体も、もともとは1個の卵子と1つの精子が結合した受精卵が分裂と増殖を繰り返し、細胞内のDNAの情報をもとに、それぞれの生命の役割をになう細胞になり、成熟した体を完成させています。

完成された私たちの体内では、毎日3千億個もの細胞が死ぬといえます。たとえば、皮膚細胞や血液細胞は、数日から数ヶ月で老化して死に、新しく生まれた細胞に取って代わります。

正常な細胞の遺伝子(DNA)には、自殺のプログラムが組み込まれていて、老化したり、ウイルスに感染した細胞は、感染の被害を他の細胞に広げないように、自殺のプログラムが働いて死に、新しい細胞が置き換わります。DNAの障害から自殺プログラムが働かなくなり、秩序を失ったのが「ガン細胞」です。

現在、日本人の死因の3分の1は「ガン」です。そして、近い将来は死因の2分の1になるだろうとの予測もあります。

人間の寿命が、ここ数年、驚異的に延びた事や食生活、ライフスタイルの急激な変化がその大きな要因だといえます。

『ガンに侵されない重要なポイントは歳はとって、老化は遅らせる養生(食生活も含めて)に心掛ける事になります』

まず、私たちに恐怖と絶望を与える「ガン」とはガン細胞の手に負えない特徴とは・・・

- ガン細胞は勝手に増える
- ガン細胞は「増殖するな」を無視する
- ガン細胞は死ぬべきときに死なない
- ガン細胞には寿命がない
- ガン細胞は外から血管を呼び込む
- ガン細胞は体内の1箇所にとどまらない
- ガン細胞の遺伝子は変質しやすい

しかし、この7つの特徴は、すべてのガン細胞が持ってはいないらしく特徴が多いほど悪性度が高い、クセの悪い「ガン」と言えるようです。

「患者よ、ガンと闘うな！」の著者である近藤先生の本のなかには「がんもどき」というガン細胞の事が書いてあります。「がんもどき」は形状は「ガン」なのだが転移しないガン細胞のことで、「ガン」と診断されたなかには、慌てなくてよい「がんもどき」が多くあると言うのです。

「ガン」そのものより、不必要な手術、抗ガン剤、検査で苦しめられている現状がある。それが題名の「患者よ、ガンと闘うな」の題名になっているのです。

ガン検診をすすめ、「ガン」を発見するや、手術をすすめ、手術の後は念のため抗ガン剤をすすめる現状があります。患者の立場になったら、自分で考え、自分で「ガン」は治すぐらいの心づもりが大切です。

新しいガン治療のための手術や抗ガン剤が開発されるなかで、その新しさゆえの手術や抗ガン剤で死亡する例は意外と多いのです。治療には、常に危険性があることも心得ておくことです。

現代医学のガン治療において、漢方や機能性食品治療は、注目されているものの、医療者自体が漢方や機能性食品治療に期待していない向きもあります。

漢方医学には、「補う」という考えがあります。人間には、自己を守り修復させる自然治癒力があり、この自然治癒力をどう自己が最大限に発揮できるようにするかを考える事が大切です。

ガン細胞はあくまでも自分の細胞であり、ウイルスや細菌などの異物でないところが、一番難しい病気なのですが、必ず一人一人の身体(細胞)そしてシステムは、元に戻ろう～元気になろうと頑張ってくれているんだとイメージしながら、応援してあげることが、大切なポイントのような気がします！！

ただ、ガン細胞を外敵のように、切ったり、焼いたり、毒で痛めつけたりばかりに目をやらず、毎日毎日入れ替わる3千億個もの細胞達の事もしっかり考えながら治療に取り組む事をおすすめします。

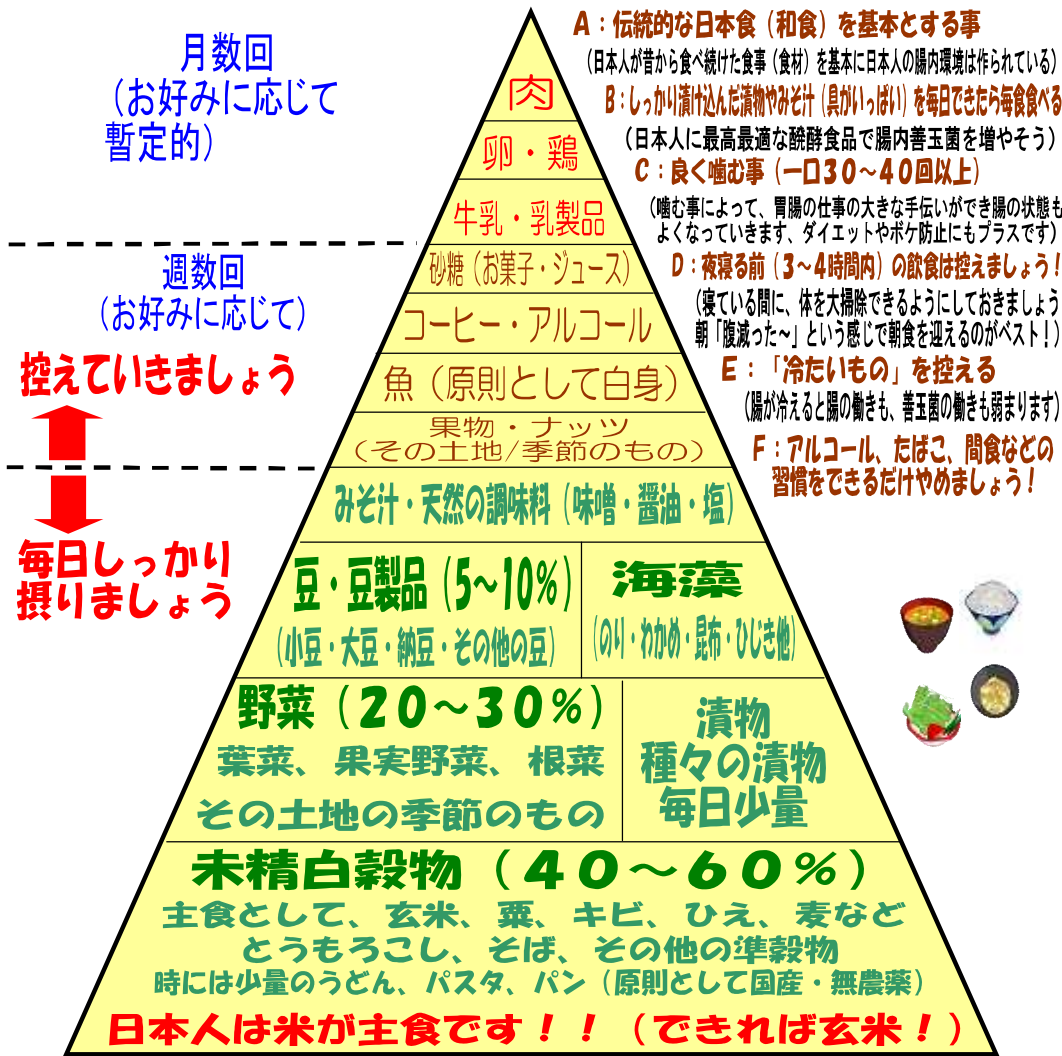
(ちなみに、初期発見の癌の場合では、重量で1g、細胞数でもわずかに10億個といわれています)

店での相談では、自分や身内が患者の立場になったら「こうします」をご紹介する事を心掛けています。

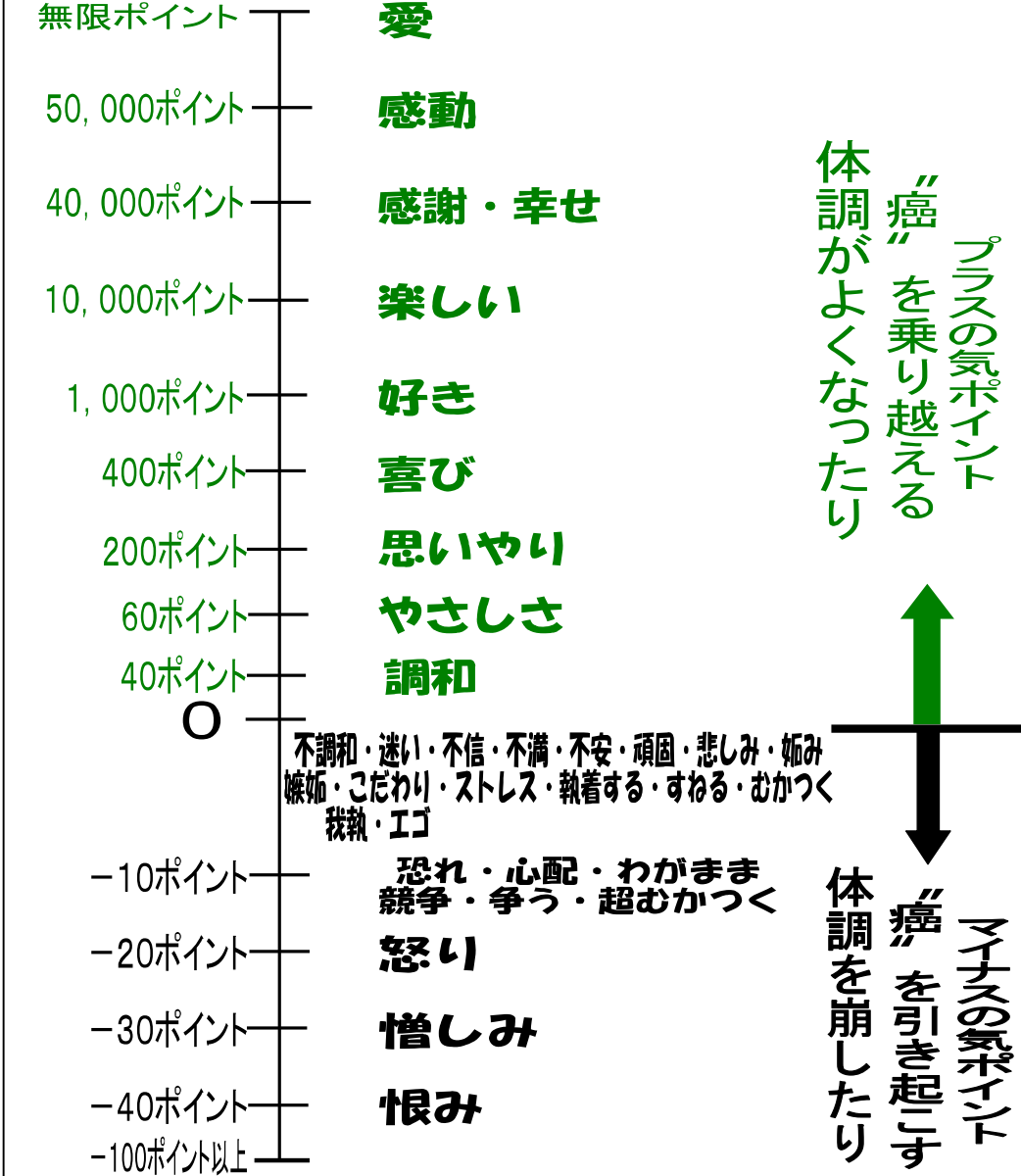
“癌、などにならないように～そしてもし癌と診断されても、毎日の食事と思いが大切になります！！”

癌は疔(やまいだれ)に品物の山と書くように身体に悪いものの摂り過ぎなど、食事の内容も大きく影響する病です。
自分の食事内容を考えて養生する事も大切です

“癌、はその人その人の思い(ストレス)などの影響が大きいといわれます。
日頃の生活からプラスポイントを増やしていく生活が大切です”



思い(気)のプラスorマイナスポイント表



汁もの：穀物、野菜、豆、海藻などを汁の形で摂る、毎日1~2回
または週数回、これらのものを材料としてもよい

水：刺激性のないもの、自然な清浄なもの、飲料や料理用に適した浄水器のもの

食品：できるだけ伝統的で無農薬/有機栽培のもの、遺伝子操作や人工栽培は極力避ける